

一般質問



山花 剛 議員
(七尾のみらいをつくる会)



■国民宿舎能登小牧台の再開について

震災からの復活と今後の見通し

質

当初「いやしの湯」と国民宿舎「小牧台」はセットで再開する方針であったが、温泉の早期再開のため分離された経緯がある。しかし、分離された小牧台は震災の爪痕が残り、草が生い茂るなど放置すれば数年でお化け屋敷化しかねない状況にある。生活再建を最優先として小牧台の復興を一旦は諦めたものの、震災から2年半が経過し仮設・復興公営住宅のめどが立った今、観光拠点としてだけでなく地域の大切なコミュニティ施設である小牧台の復活に向けた動きが必要である。市の現在の考えと、再建に向けた時期のめどや国・県の有利な制度の活用について見解を伺う。

答

国民宿舎能登小牧台については、被災度区分診断の結果、補強工事を行えば継続使用は可能であるものの、再開には多額の費用を要するため現在も苦慮している。

現在は施設の在り方について国や県と協議中で、議員提案の制度適用の検証も含め、その方針が定まった段階で予算措置に移行したいと考えており、現時点で具体的な時期のめどは立っていない。あらゆる再建方法や空き公共施設への該当可能性なども含め、国・県の有利な財源の活用を見据えて検討を進めているところである。年月が経つほど施設のにも使いにくくなる懸念は認識しているため、ご指摘の5年をめどに見据えながら、鋭意努力していきたい。

一般質問



和田内 和美 議員
(新政会)



■復興公営住宅の整備とコミュニティ維持、入居運用の課題について

単なる住宅整備ではない、暮らしとコミュニティの再建を！

質

本年5月、仮設住宅住民有志から市へ要望書が出され、ペットと暮らせる住まいの確保が切実に求められた。ペットは被災者の心の支えである。市はムービングハウス等の活用を検討すると回答したが、検討にとどめず具体化を進めてほしい。ペットと入居できる復興公営住宅について、現時点の整備方針、スケジュール、希望者への対応を伺う。

また、仮設住宅で築かれた支え合いのコミュニティの維持も大きな課題である。近隣市町では、コミュニティ維持のためにグループ応募制度を導入している。本市においても、同制度の導入を前向きに検討すべきと考えるが、見解を伺う。

答

ペット飼育が可能な復興公営住宅は、現在建設型応急仮設住宅として使用中のムービングハウス等を再利用し、市内1か所で整備を検討している。整備地は地元町会や関係者と協議して決定する。現在入居者がいるため早期整備は難しいが、令和10年3月目標の復興公営住宅整備に伴い、仮設住宅を順次集約・撤去した後、移設や修繕等を行い、令和10年秋頃の入居開始を目指す。現時点で19世帯が希望しており、全員が入居できるよう戸数確保に努める。

また、グループ応募制度については、令和7年度の事前申込み調査で希望世帯を登録し、結果に基づき整備地区や戸数を決定したため、概ね希望に沿った入居先となっている。調査は終了し団地整備が進んでいるため、新たな応募は考えていない。今後、キャンセルや退去等により空き住戸が生じた場合も一般募集とし、グループ応募は行わない予定である。